

RSNA 2020

— Human Insight/Visionary Medicine —

第106回北米放射線学会 (RSNA 2020) が、2020年11月29日 (日) ~ 12月5日 (土) の7日間の日程で開催された。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックにより、RSNA 史上初めて、実地開催をなくし、バーチャルミーティングだけの学術集会となった。テーマには、“Human Insight/Visionary Medicine” が掲げられ、Plenary Sessionをはじめ、Digital Poster, Virtual Exhibitionなど、バーチャルミーティングの利点を生かしたプログラムが用意された。COVID-19の収束 (終息) が見通せない中、ニューノーマル時代のRSNAを感じられる機会となった。

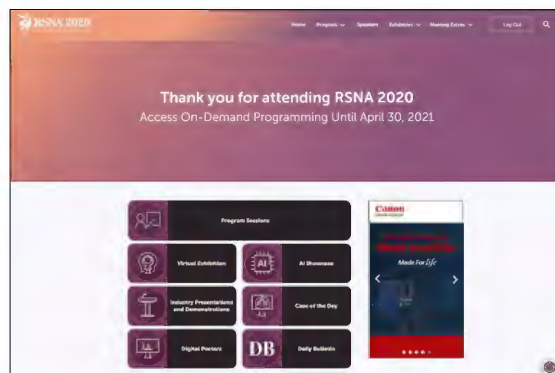
● COVID-19に打ち勝つ ために求められる連携

RSNAの前身であるWestern Roentgen Societyが1915年に第1回の会合を開いてから100年以上の歴史があるRSNAにおいて、初のバーチャルミーティングだけの学術集会となった今回、初日11月29日の時点で、2万6318人の参加登録があった。シカゴ市のマコーミックプレイスでの実施開催よりも、距離や時間の制約がなく参加できるのが、バーチャルミーティングのメリットであり、これによって放射線科医の登録者数が20%増加した。また、参加登録者のうち40%は北米以外の国・地域からの参加であり、国数は133か国に上った。なお、前回のRSNA 2019は、Professional登録の2万6552人を含め、5万1800人の参加があった。

国際化が進むRSNAであるが、現在の会員数は、153か国、5万2000人以上となっている。COVID-19のパンデミックにより多くの国で医療現場は厳しい状況にあるが、RSNAの参加者も含め多くの医療従事者の献身的な努力によって、多数の命が救われている。米国中部標準時11月29日11時から配信された

Opening Session and President's Addressにおいて、大会長を務めたコロラド大学デンバー校放射線科教授であるJames P. Borgstede, M.D.は、“One World, One Radiology Community—A Vision for Tomorrow”と題した講演の中で、COVID-19のパンデミックの初期段階において、放射線科医による画像診断が重要な役割を果たしたと評価した。そして、人間と技術の力で、未知のウイルスに打ち勝つと力強く語った。

さらに、Borgstede大会長は、講演の中で、ヘルスケアにおける放射線診療の役割について言及した。人的資源と技術力がある放射線診療は、世界の医療が抱える課題を改善できる可能性があると述べた。COVID-19に対しても、RSNAは2020年3月27日に、米国胸部放射線学会 (STR)、米国放射線学会 (ACR) とともに、COVID-19における胸部CTのカテゴリ分類を示す“Radiological Society of North America Expert Consensus Document on Reporting Chest CT Findings Related to COVID-19”を公表している。Borgstede大会長は、こ



RSNA 2020のトップ画面

2021年4月30日までオンデマンドで視聴可能である。

うした取り組みを紹介した上で、放射線診療にかかわる世界中の人々と連携して、患者中心の医療を平等に提供していかなければならないと訴えた。

● 平等な医療アクセスに 向けた協調を提言

Borgstede大会長のPresident's Addressに続き、Opening Session Lectureとして、バーモント大学放射線科教授のKristen K. DeStigter, M.D.が、“The Power of Radiology to Drive Collective Action and Transform Global Health”をテーマに講演した。DeStigter氏は、アフリカ大陸の一部の国々など、世界には医療資源の乏しい

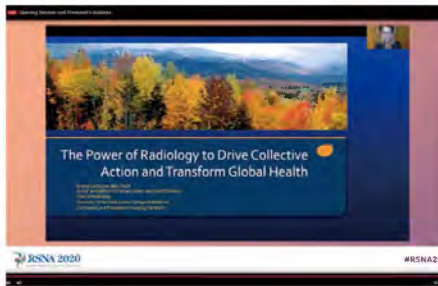


Opening Session and President's Addressに登場した大会長のJames P. Borgstede, M.D.

国や地域で十分な医療が提供されていない問題があると指摘。2015年の国連サミットで採択されたSDGsの一つに、「すべての人に健康と福祉を」という目標が掲げられていることに触れた上で、放射線診療においても放射線科医や画像診断装置が不足している国が多数あると、具体例を挙げて説明した。そして、この問題を解決するために、放射線診療のアクセスが十分でない国や地域に対して、限られた医療資源でも医療サービスを受けられるソリューションの開発が求められると指摘。実現に向けて、放射線診療にかかわる人たちが協調し、医療への公平なアクセスができるように取り組むべきだと述べた。

●山田大輔氏らが Magna Cum Laude を受賞

このOpening Sessionは、初日の時点で3400人以上が視聴した。Opening Sessionでも取り上げられたCOVID-19であるが、関連するセッションは74あった。この内訳は、Featured Education & Science Sessionが9セッション、Education Exhibitが51セッション、Science Abstractが14セッションであった。



Kristen K. DeStigter, M.D.によるOpening Session Lecture

ビデオプレゼンテーションシステムとしては、Education Exhibitが1400題以上、Education Courseが90コース以上、Scientific Posterが1000題以上が用意された。また、Featured Education Courseが90コース、Featured Science Sessionが40セッション、Plenary Sessionが6セッション設けられた。オンデマンドシステムでは、130以上のEducation Course、60セッション以上のScience Sessionがあった。

会期中には恒例のEducation Exhibitの受賞者が発表された。日本人の受賞では、Magna Cum Laudeに山田大輔氏（聖路加国際病院）らの“Up, Down, and All Around : How the Distribution of Lung Disease is Affected by Ventilation, Perfusion, Immune, and Other Factor” (CH148-ED-X) が選出。Cum Laudeには、井上明星氏（メイヨークリニック）らの“Multi-modality Imaging of neuroendocrine neoplasms of the small intestine, colon, and rectum LUMINAL IMAGING GROUP” (GI269-ED-X)、野田主税氏（ジョンズ・ホプキンス大学）らの“A Primer on Commonly Occurring MRI Artifacts and How to Overcome Them” (HP137-ED-X)、永縄将太郎氏（ミシガ

ン大学）の“Imaging Findings of CNS Lymphoma with Emphasis on DSC-Perfusion” (NR228-ED-X)、山口敏雄氏（新百合ヶ丘総合病院）らの“The Role of MR-guided Focused Ultrasound as a Symptomatic Treatment for Parkinson's Disease : Behind and Beyond” (NR152-ED-X)、内匠浩二氏（鹿児島大学）らの“Imaging Features of Drug-Associated Changes in the Head and Neck” が選ばれた（27～28ページ参照）。

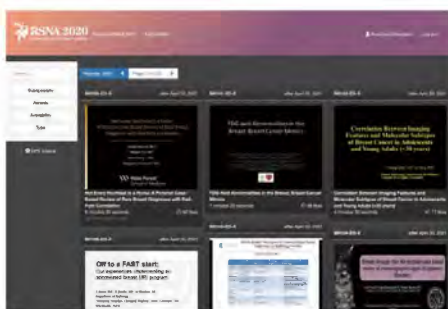
また、RSNA 2020に先立って、AI技術のコンペティションであるRSNA STR Pulmonary Embolism Detectionの結果が発表された。日本人では、松浦和摩氏（リコー）、秋山 理氏（大阪大学医学部附属病院）、有安祐二氏（アイリス）ら、島越直人氏・佐藤 倫氏（Mobility Technologies）が受賞した。

このほか、機器展示として設けられたVirtual Exhibitionには、235社が出展。会期中にはブーススタッフとのコミュニケーションも可能であった（29～33ページ参照）。

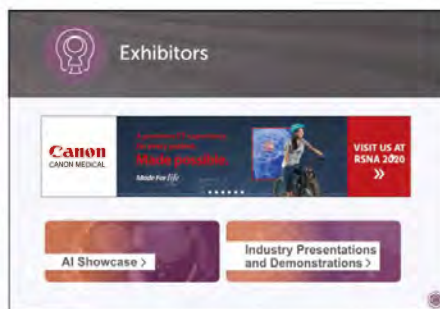
* * *

RSNA 2020は、2021年4月30日までオンデマンドで視聴・閲覧することが可能だ。なお、次回第107回北米放射線学会（RSNA 2021）は、2021年11月28日（日）～12月2日（木）の5日間の日程で、マコーミックプレイスを会場に行われる予定である。従来の実地開催より日程が1日短縮される。大会長はシンシナシティ大学放射線科教授のMary C. Mahoney, M.D.が務める。

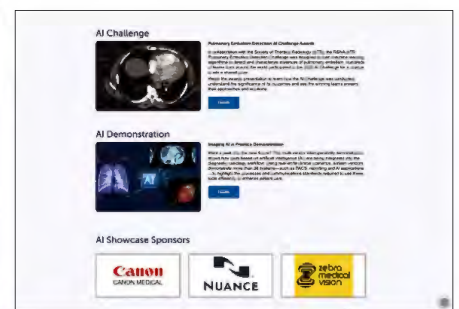
*太字および（ ）内は演題番号



ビデオプレゼンテーションシステムによるDigital Posterの配信



235社が参加したVirtual Exhibition



AI ShowcaseではPulmonary Embolism Detection AI Challenge Awardsを紹介